

会 議 録 (要 旨)

会 議 名	第3回武蔵村山市長期総合計画審議会
開 催 日 時	令和元年11月25日(月) 午前10時から午後零時10分まで
開 催 場 所	市役所4階 中部地区会館403集会室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：和田委員、阿部(慶)委員、阿部(和)委員、石塚委員、佐藤委員、杉原委員、高橋(薫)委員、高橋(玲)委員、田代委員 欠席者：平野委員
議 題 等	1 開 会 2 報 告 (1) 第2回武蔵村山市長期総合計画審議会の会議要旨について (2) 武蔵村山市の財政状況について 2 議 題 (1) 武蔵村山市長期総合計画 基本構想について (2) その他
結 論 (決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。)	議題(1) 武蔵村山市長期総合計画 基本構想について： ・将来都市像については、引き続き個別に事務局へ意見を提出し、次回、審議会としての意見を決定することとした。 議題(2) その他について： ・次回の審議会は、1月27日(月)又は29日(水)の午前10時からを予定し、後日連絡することとした。
審 議 経 過 (主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめる。)	1 開 会 (会 長) 本日の出席委員は9名であり、半数以上が出席しているため、有効に成立する。傍聴希望者はいなかった。 2 報 告 (1) 第2回武蔵村山市長期総合計画審議会の会議要旨について (2) 武蔵村山市の財政状況について 資料1, 2, 3に基づいて事務局が説明 —質疑・意見等— (委 員) 高齢化率の上昇と生産年齢の減少によって財政運営は厳しくなるが、どのように対応していくのか。 (事務局) 扶助費を下げるのは難しいと思われる。今後、公共施設の統廃合を進める可能性もあり、財政状況によっては、サービスの低下も懸念されるところではある。 (委 員) 物件費が約1割増えた要因は何か。 (事務局) 都市計画道路の測量・整備の事業で増えている。 (委 員) 投資的経費が少ない中で、どのように予算を捻出していくべきと考えているのか。 (事務局) 「前年比ベース」で考える自治体が多い中、本市では毎年ゼロベースから予算を考えるようにしている。そのような方法で無駄が極力発生しないように努めている。 (委 員) 公民館の市民講座には受講者が少ないものが散見され、無駄が多いと思われる。 (事務局) 受講者が少ない講座があるのは事実で、そのような意見は他からもあるものの、熱心に参加する人もおられ、廃止するなどの対処は難しい状況にある。 (委 員) 歳出入のバランスは適正水準であり、基金もある程度あって安心できるが、今後の課題についてはどう捉えているか。

(事務局) 現在は予算を組んでいるが、歳入については借入金が入っているといった意味ではマイナスである。基金についても、モノレールの整備が始まればそれでも足りないと思われ、庁舎の移転も基金では賄いきれない。今後は、サービスを低下させることなく、AIやRPAなどを活用して効率化を推進していくべきと考える。

(委員) 榎地区の道路整備の進捗状況はいかがか。

(事務局) 説明会等を行いながら計画を立案している段階である。

(委員) 市民との情報共有が大切であるが、どのような事業を行っているか。

(事務局) 市報が10月からカラー化したのが、引き続き、順次見やすくしていく予定である。

(委員) カラー化に際して、市民からは情報量が少なくなったといった声もある。今後、SNS等の活用にも注力してほしい。

2 議 題

(1) 武蔵村山市長期総合計画 基本構想について 資料4に基づいて事務局が説明

一質疑・意見等一

(委員) 国勢調査の「職業」において「分類不能」が増えているが、どういう仕事か。

(事務局) 各人の回答であり、よくわからないで正しく記述できていない人もいると思われる。

(事務局) 例えば農業に関しては、生産されたものを加工して販売するなどの複合型の仕事が増えており、分類しづらい職業が増えていると思われる。

(委員長) 「職業上の地位」も多様化している。

(委員) グラフは現計画掲載分を更新する、とのことだが、解説の文章では詳細に記述している箇所もあるため、場合によっては、グラフが示す内容を充実してもよいと思われる。

(委員) 大きな課題が列挙されているが、例えば、「モノレールが整備されたときにはどのようなまちになるか」といった内容は含まれるか。

(事務局) そのようなことを記載したいところではあるが、東京都の事業であるため、「必ず事業を実施します」といった直接的な表現は難しい。

(委員) その際、「市の計画にないから事業を進めない」といった根拠に利用される恐れはないか。

(事務局) 東京都と調整の上、可能なところまでは記載したいと考えている。

(委員) 認定農業者については手続と基準が厳しいとともに、生産緑地法の改正によって農業・農地・農家の動向が大きく変わると見込まれ、モノレールの計画如何でさらに変動することから、先は読めないのではないか。

(事務局) モノレールの整備が決まれば、長期総合計画の作り直し自体もありうるだろう。

(委員) モノレールの整備については、図面でなくとも文言でいいので、ぜひ盛り込んでほしい。

(委員) 国土交通省では「持続可能なまちづくり」「人間重視のまちづくり」を掲げるようになり、道路については「歩くための空間」と捉え直し、まちの活性化に活用することも念頭に入れている。

